

平成27年度鳥取県環境学術研究等振興事業

テーマ

倉吉打吹山麓の歴史的風致に関する総合調査 —「歴史まちづくり法」による広域的景観保全計画にむけて—

研究者

浅川 滋男(公立鳥取環境大学)

概要

初年度(2013)は長谷寺の文化遺産、第2年度(2014)は河原町・鍛冶町2丁目の町並みの調査に取り組んだ。最終年度(2015)は町並み調査の継続として、河原町・鍛冶町に集中する茅葺き民家の調査研究と小鴨川外周域に広域的に分布する伯耆国庁跡など古代史跡群と文化的景観に関する調査研究に取り組んだ。また、「れきまち研究会」を2回開催し、地域住民の意向をくみ取ることに重きをおいて報告書を作成・刊行した。

研究内容



「都市の茅葺き民家」の分布(旧陣屋町エリア)



before 取り壊された旧山岡家住宅 after

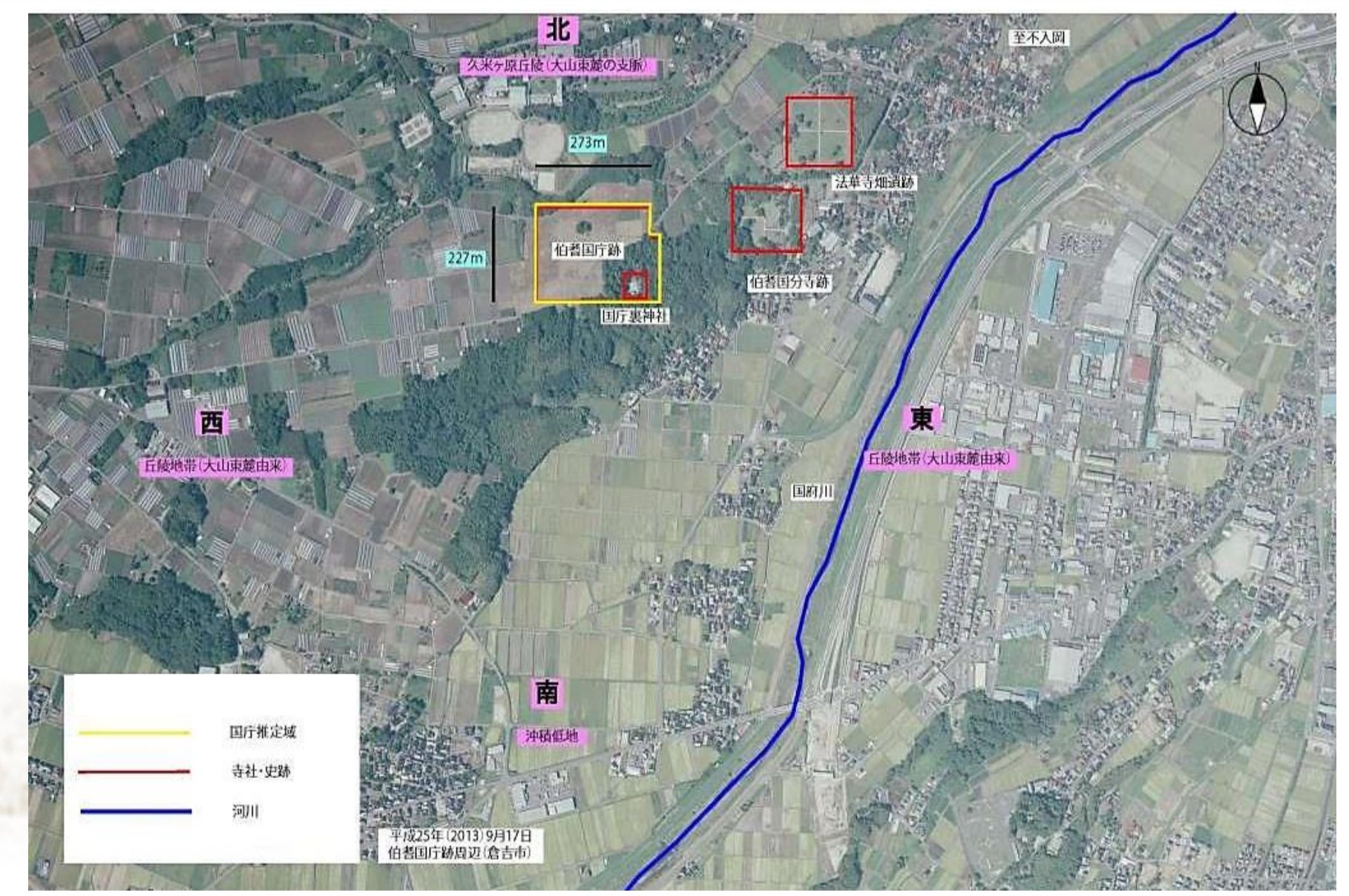


第4回れきまち研究会

文化的景観としての史跡と農地

倉吉は伯耆国府が置かれ、古代から県中西部の政治的拠点であった。国庁跡・国分寺跡に加え、官倉「不入岡遺跡」や国分尼寺「法華寺畑遺跡」などが相接して分布し、市街地の東には山陰を代表する古代寺院「大御堂廃寺跡」が所在する。これらの多くは小鴨川の外周域に点在しているが、その場所は中世以降、肥沃な農耕地域として発展を遂げ、近代になると、県内初の農業高校(倉吉農高)が設立される。つまり、小鴨川外周域は古代の遺跡群や条里の地割と中世以来の農地が複合した景観を育てており、文化財保護法の「(重要)文化的景観」の制度を用いて広域的な景観を保全を成し遂げるべきことを主張した。また、旧陣屋町と連携するトレイルやサイクリング路の提案をした。

背景: 伯耆国府跡



伯耆国府周辺の史跡と条里の痕跡



東地蔵と旧小倉家土蔵

歴史的風致—地蔵盆の風景

毎年8月23日に地蔵盆がおこなわれる河原町五叉路の周辺は歴史的風致が発露する代表的なスポットである。辻の余白にたつ地蔵がコミュニティのシンボルであり、その周辺は祭礼の舞台となる重要なスペースである。ところが、2016年2月、地蔵の背面に建つ旧小倉家土蔵を壊し駐車場にする話が持ち上がった。まもなく地元関係者との協議がおこなわれ、土蔵を保全し「地蔵盆の風景」を守ろうという決断が下された。そして、私たちは2016年度になってから実測調査を進めていった。ところが、中部地震が発生し、土蔵の白壁が一部剥離し、屋根瓦がずり落ちてしまった。調査の中途段階で被災すると、国や自治体の救済措置の対象とならない。

そこで、私たちは講演会等で寄付を募り、寄付金を所有者に直接寄付する活動を始めた。今後も支援活動を継続し、修復保全の道筋をつけたいと願っているが、なにより行政は、保全が担保された文化財建造物だけでなく、未指定・未登録の価値ある遺産にも目を配り、歴史都市「倉吉」の未来を再構想すべき好機と考えるべきであろう。

応用分野

町並み保全 文化財保護 空家対策 都市計画(中心市街地活性化) 観光

連絡先

公立鳥取環境大学 環境学部 教授 浅川滋男

保存修復スタジオ(asax@kankyo-u.ac.jp 電話番号0857-38-6775)